

「東京に在る教会」

責任長老 Y 氏の発言の記録

私に通告書を送って来た人物で中国人。日本の「地方教会」にとってはリーから派遣された、同教会のいわば「使徒」的な役割を担う人物。リーのきわめて忠心の弟子。彼は反リーの発言を日本で最初にした人であるが、それにも関わらずリーに飲み込まれてしまった。彼の初期の発言の証人は多く存在する。

K 兄弟:1988 年 4 月に Y 兄弟いわく“回復をやめたい。代価を払ったのにひどいことになってしまった。10 月にリー兄弟がきて私を罪定めするだろう”／K 兄弟:“教会は変質してしまったのではありませんか。”

Y 兄弟:“その通りだ”

私:1988 年 12 月に Y 兄弟談:“事実を知らない人たちにはあなたがたが個人的に語りなさい。リー兄弟は明らかに間違っている。1 月の曲兄弟の集会はリー兄弟の誤りを兄弟姉妹に宣言する機会なのだ”

S 兄弟:“私(Y)は別の集会を始めようとしたが思いとどまった。87 年末の事であった。今は様子を見よう。とにかくリー兄弟のしていることは律法学者、パリサイ人と同じである。許しがたいことである”(注:「東京に在る教会」の元長老で本記録の作成者)

以上の Y 兄弟の感覚はまったく主からのものであった。きわめて残念なのは、

1) 以上の事実をそのまま教会の兄弟姉妹の前に置き、対応策は彼らに任せるべきであったのに、彼は事実を公表することを長い間ためらい続けたことであった。思いの中でいつまでも悩み続けるのならば、必ずリーに飲み込まれて行くと私(S)は見ていた。

2) 彼の上に日本の諸教会の運命が懸かっているという事実の故、日本の諸教会を守るべく彼は勇気を持って立ち上がるべきであった。そうすれば多くの兄弟姉妹達も彼と共に立ち上がったはずである。

以下、S と Y の間の会話の記録によって、Y の心の変化を追ってみたい。

・1989 年 1 月 18 日(水)長老の集会にて:

リー兄弟が日本に来ることを希望していることを聞いて、

S:リー兄弟の来日は阻止すべきである。なぜなら曲兄弟のメッセージの直後である。曲兄弟のメッセージが無駄になる。(注:曲兄弟の特別集会は 1 月 13-15 日)／Y:誰が‘来てくれるな’とリー兄弟に言えるのか。

S:私はできます。

Y:聖書を読み語るという内容の話をしてもらったらいいいではないか。

S:問題は話の内容でなく、誰が語るかである。

・1989 年 1 月 24 日(火) 首都圏の長老の集会にて:

Y 兄弟いわく;

1) 1985 年私は台湾に招かれた。それはフィリップ・リーを教会、働きの主役にする目的の集会であった。そこでは彼の前では直立不動になるのである。私はリー兄弟に言った。自分はいけません、と。

2) 最近フィリップ・リーの事が米国の新聞に載った。そこで皆さんは私と一緒に次のように答えて下さい。

- ・リー兄弟はフィリップを解任した。
- ・アナハイム教会はフィリップを除名処分にした。
- ・故に問題は解決済みである、と。

3) 次の3点を大切にしたい。

- ・主の言葉、聖書のみを模範とし、リー兄弟のしていることは模範にならない。息子の起用は見習うな。
- ・聖霊のみに聞くべし。人は間違ふものである。
- ・主の御名のみを重んじる。

・1989 年 1 月 28 日(土) 彼の家を訪問してゆっくり交わる:

Y 兄弟は元気そうであった。

S: 水曜日のビデオをやめたらどうか。／Y: 私もどうしてよいか分からない。

S: ドイツ、香港をどう思うか。／Y: リー兄弟をここまで追い込んだ功労者である。勇気がある。もちろん彼らは地方教会である。(曲兄弟、張兄弟、劉兄弟の違いを語り) 劉兄弟は集会の中でリー兄弟を賛美している。兄弟姉妹にリー兄弟の事を話すときは話し方が大切。

S: 大阪はもはやリー教会と言えるのではないか。／Y: そういう言葉はないが事実はどうだろう。

S: Y 兄弟の作戦は分かるがもう少し押す必要があるのでは? ／Y: …、台湾の 90% はリー派である。H 兄弟の真意を知るべきである。彼にだまされてはならない。(注: Y 氏を廃して別の長老を立てる目論見を持っていた)

S: これからの青写真を教えてくれ。／Y: 分からない。

S: 教会は自由でなくてはならない。／Y: その通りである。東京に在る教会に直接彼らの手が伸び、われわれを排除しようとすればその時は立ち上がるべきである。ローズミード、香港、ドイツも強い干渉を受けたので立ち上がったのだ。そういう時に立てば兄弟姉妹を得ることができる。今は香港、ドイツのようにやれと皆に勧めるわけには行かない。

S: あなたはリー兄弟に謝ったのか? ／Y: はっきりと謝ったわけではない。しかし、リー兄弟の息子のことを兄弟達に話したことは彼に告げた。

S: しっかり真理の上に立ってもらいたい。あなたがリー派になってしまったのではないか、やる気はあるのか、と疑問を抱いたこともあった。しっかり真理に立ってくれるのであればいままでどおり協力したい。

Y: 大阪は私が反旗をひるがえすのを待っているのだ。大阪に主導権を奪われるのは嫌である。今は東京には自由があるからよいではないか。

S: リー兄弟は精神病ではないか。／Y: そういうところもある。

Y:リー兄弟の台湾での作戦が成功すれば、自由地域にも手を伸ばして来るかも知れない。T 兄弟(大阪の長老)はフィリップは功労者であると言っている。

S:私が恐れるのはフィリップではない。リー教会になってしまうことである。私たちが宗派を出たのは真理のためである。なのにリー派になるのであれば宗派を出す必要はなかった。／Y:今は様子を見るときである。彼は 80 歳であなたは 40 歳であるから勝敗は目に見えているではないか。リー兄弟は曲兄弟を恐れている。新聞にも載った以上、リー兄弟もはや息子を立てることはすまい。フィリップを解任し、アナハイムの教会は除名したから問題はないと言おう。しかしその実際がなかったらその時は立ち上がってもいい。私と H 兄弟(日本福音書房社主)がリー兄弟に対して先手を打ち、福音書房を返すと言ったところ、リー兄弟は、いやそのままでよいと言った。これは大成功で、書房を取られずに済んだ。

ところが 2 月 9 日に至り、彼の態度は急変した。電話を受けた S は呆然自失そのものであった。

注)彼がここで急変する理由となる外的事実関係についてはある程度把握しているが、それをここで書くことはあまりにもおぞましいのでやめておく

・1989 年 2 月 9 日(木) Y 兄弟よりの電話:

- 1)この間、リー兄弟に謝らなかったと言ったが、実は手紙で謝ったのだ。そのようなことを言ってみません。
- 2)レビ記のビデオをみて皆はリー兄弟についていく雰囲気である。どうにもならない。
- 3)曲兄弟を招いた後自分の病気が再発した。このことを通しリー兄弟に反対するのは私のすることではないと分かった。
- 4)私と一緒に歩いて下さい。そうしないと少数派になってしまうよ。
- 5)リー兄弟を招かなくてはならないはめになってしまった。

・1989 年 2 月 12 日(主) 朝Aホールにて:

Y 兄弟と初めて対決する雰囲気です。

S:自分の良心に照らしてこの間のあなたの感覚は受け入れられない。劉兄弟は集会の中でリー兄弟を賛美しているとこの間言ったのに、なぜ劉兄弟を特別集会に招くのか。／Y:それはリー兄弟のメッセージが素晴らしいと劉兄弟が言っているという意味である。

S:劉兄弟を招けば当然彼はリー兄弟を招けと言うに決まっているではないか。

Y:それは予測できなかった。

(注:劉兄弟を招こうとしたところ、彼の指示によりリー兄弟を招かざるを得なくなったことを指している)

S:フィリップを除名にしたのは表面だけではないのか。／Y:その真偽の程は分からないから、何とも言えない。

S:もし形だけ首にしたのであれば最も悪質である。なぜなら人をだまそうとすることだからである。

／Y:リー兄弟は今はいいメッセージを語っているからいいではないか。

S:今のメッセージがどうかということではなく、リー兄弟がどのような人間かということが大切だ。私は彼という人間性を受け入れられない。

Y:ニー兄弟の“教会の諸事”を読むと今のリー兄弟の実行と同じである。

S:ビデオを見て兄弟姉妹達はみなリー兄弟についていく構えだというが、それはわれわれが正し

く導かないからそうなるのではないのか。事実を隠しすぎたのだ。／Y:その指導は私にはできなかった。

S:私はわれわれがリー教会になることを恐れるのみだ。

Y:あなたは東京に住む人である以上分裂はできない。今ほとんどの人が右に行こうとするときに、一人だけ左というわけにはいかない。

・1989年2月12日(日)午後Y兄弟よりの電話:

- 1)ここは何も言わずに譲ってもらいたい。
- 2)お許し下さい。すべては私に責任がある。
- 3)私は×××になりかけているのだ。

・1989年2月19日(主)電話にて:

- 1)完全なリーダーはいない。パウロもそうだ。だからリー兄弟も失敗しうる。
- 2)リー兄弟の失敗は監督不十分の失敗に過ぎない。故にリー兄弟に罪はない。
- 3)われわれも罪を犯すではないか。
- 4)今私は裁かれている。その証拠が私の病気である。私の姉妹の病気も悪化している。命に燃えなくなった。私から主が去った。
- 5)曲兄弟も裁かれている。彼の妻が癌になったのはその現れである。
- 6)本当の感覚を言う。今はリー兄弟を離れてやるができなくなった。主が許さない。以前はリー兄弟とやるのが苦しかったのに・・・
- 7)リー兄弟は私たちを異端に導いたのではない。だからよいではないか。私はリー兄弟から離れられないのだ。
- 8)リー兄弟以外に導ける者はない。彼は謝ったではないか。
- 9)分裂を避けたい。そうでないと今までの努力が水の泡になる。
- 10)フィリップの罪の証拠は不十分である。

S:大阪と今のあなたは違うのか。／Y:彼らのやり方は荒っぽい、そこが違う。

・1989年2月22日(水)電話にて:

Y:尻から血が流れる病気になった。これは裁きである。S兄弟もおとなしくしている方がよい。これまでいろいろあなたに話したが、これらを取り消します。権威に逆らった裁きである。すみませんでした。

・1989年3月6日(月)S兄弟がY兄弟に電話して(私も同席):

S:あなたはアメリカへいくと聞いたが、事実ですか。

Y:私はそれどころではない。もうどうしていいかわからない。■■■■。主を愛する気持ちも失った。私は×××である。主の裁きを受けているのだ。

S:真理に立てばそのような病気は治ります。真理に立って下さい。

心配した私たちは彼のアメリカの親族に N 兄弟 (注: H 氏から恫喝を受けた兄弟) を通して連絡をとる。実際■■■■■■■■。私は Y 兄弟の家を訪ねた。彼はひたすら頭を下げ続け;

[illegible]

K: 兄弟、もう休んで下さい。／Y: そうします。こうやってあなたと話している気力もうない。